



学校法人
鎌倉女子大学

創立80周年記念事業に向けて 岩瀬キャンパスの再整備と「百年を思う者は人を育てる」実行プランへのご理解のお願い

鎌倉女子大学は、2023年に80周年を迎えます。この節目の年に向けて、岩瀬キャンパスの総合的な再整備に着手することにしました。

卒業生の方々には思い出深い学びの庭でしょうし、特に岩瀬キャンパスは、学祖・学父が自ら手掛けたキャンパスだけに、今日の責任を預かる私共にとりましても、その再整備を決断するまでには格別な思いがありました。

これまでも、折に触れて耐震化を中心に改修を重ねてまいりましたが、いよいよ本格的な再整備を実行に移すことにします。

まず、南側総合グラウンドの一角、大きく富士山を望める方角に、中・高等部用の新校舎を建設します。教室・図書室・メディアラウンジ・ラーニングcommons・体育館・礼法室他の各施設、そして中庭やテニスコート、200メートルトラックをもつグラウンドを機能的に設えたいと考えています。

一貫教育の総合学園ですから、大船キャンパスとの一定の親和性をもった雰囲気づくりにも配慮したいと思いますが、学術研究を伴う大学施設とは異なる、学齢期に応じた明快で若々しい建物にしたいものと思います。

次に、本館を改修、ここに岩瀬キャンパスの中央管理システムと初等部をおきます。また、現在初等部が使用している西館を改修し、幼稚部を移転。これにより、既存の幼稚部・初等部の校地・校舎面積は、それぞれ1.8倍、また1.3倍に広がり、これまで以上に緑も増え、相当大規模な幼稚部・初等部となる見込みです。

更に、現在の幼稚部ひまわり館を学友会館として整備し、改装なった新グラウンドでのラクロスがいいか(?)、フットサルがいいか(?)、スポーツ系授業のためのミーティングルームとして活用して頂きたいと考えています。また、カトリア館跡地に水田を展開、収穫した新米を校歌に謳われる五所の宮に奉納させて頂いてもいいのではと、これも夢は広がります。この計画案を2023年に向けて順次進めてまいります。

このため、学祖・生太先生の座右の銘に倣い「百年を思う者は人を育てる」実行プランを立案しました。かつて、学父・尚先生の時代には、本学は、寄付募集をしないことを旨としておりました。特に保護者の皆さまに対しては授業料や施設費を頂いているわけですから、それ以上のご負担をお願いする寄付募集には慎重でなければならないといった思いがあったのだと思います。そのことは、今でも肝に銘じなければならないと思っています。

しかし、時代は様変わりしまして、文部科学省も私学振興共済事業団も各学校法人に積

極的な寄付募集活動を促すようになりました。アメリカの優良大学などでは学校経営の7割を寄付で賄っていると聞きますので、次代を見据えて、文科省も財務省と折衝を繰り返し、所得控除や税額控除を制度化してくれたのでしょう。本学も、私自身が率先垂範、この事業と取り組まなくてはならないと考えています。

用途は、岩瀬キャンパスの再整備だけでなく、寄付者のご指定に応じて、教育研究など、何れにも有効に使わせて頂きます。個人寄付だけでなく、会社などを経営なさっている方で団体寄付という形をとりたいという場合には、控除制度を活用するために決算期とのタイミングも見計らわなければならないと思いますので、ご都合の一番いい月年で結構です。

ただ、最後に老婆心ながら申し上げておきたいと思います。寄付は、言葉の強制や無言の圧力によって誘導されるべきものとは絶対になく、各自の自由意思に基づくものです。また、寄付は、教育活動とは全く別次元の話です。従いまして、寄付行為の有無、寄付金額の多寡によって各自の立場に影響が生じるようなことがあってはなりません。そのようなことは、却って寄付募集への折角の努力を台無しにしてしまうものです。ですから、ご無理のない範囲で結構ですので、鎌倉女子大学の教育研究の充実・発展のために、私共の微衷をお汲み取り頂ければ幸いに存じます。

詳しくお尋ねの方は、「学校法人鎌倉女子大学経理部経理課（募金担当）／代表電話番号 0467-44-2111」にお問い合わせ下さい。

[>前のページへ戻る](#)